

4. 子ども読書活動推進計画

「第2期豊中市子育て・子育て支援行動計画 こどもすこやか育みプラン・とよなか」に継承した「豊中市子ども読書活動推進計画」の理念に基づき、関係部局・施設・団体・市民と連携しながら、子どもの読書環境の整備と読書活動の推進に取り組んでいる。

令和4年度は子ども読書活動連絡会を2回開催。第1回は「本の広場」として、ジェンダー、多文化共生、子どもの貧困、子ども食堂、新刊絵本、「りんごの棚*」の資料を展示し、テーマにそった本を紹介した。第2回は現在社会問題となっている「ヤングケアラー」について理解を深める機会とし、意見交換とあわせ各委員からの情報提供も積極的におこなわれた。また「とよなかこども読書マップ」をより分かりやすく使い勝手の良いものにするため、従来の3つ折からA4判の1枚ものに変更し、好評であった。



第2回子ども読書活動連絡会

今後も子ども読書活動連絡会の協力体制のもと、子どもの読書活動の推進に取り組む。

* スウェーデン生まれの「特別なニーズのある子どもたちのための資料を展示した棚」。すべての子どもに読書の楽しさを知ってもらうことが目的で、世界各地に広がっている。

5. 事業報告

◆ 暮らしの課題解決

図書館では市民生活のうえで特に関心の高い課題として、4つのテーマ「医療・健康情報（岡町）」・「多文化共生（庄内）」・「ビジネス・就労（千里）」・「子育て・DV（野畑）」を設定している。新型コロナウイルス感染防止対策を講じながらの関係部局・機関と連携したセミナーや、各テーマにそった資料収集や情報提供などを工夫しておこなった。令和5年3月に策定した「豊中市立図書館みらいプラン」では新たなサービス展開の一つとして暮らしの課題解決などの取り組み推進を掲げており、今後一層の充実をはかる。

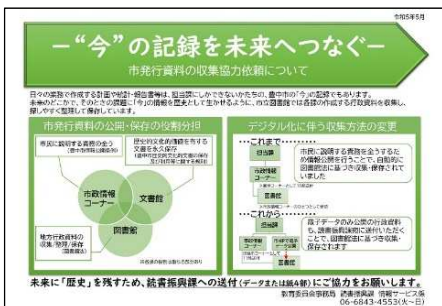
各テーマごとの取り組み（市民協働事業については別途掲載10ページ）

医療・健康情報	<p><講座></p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症サポーター養成講座（6回 会場：岡町、庄内、千里、野畑、東豊中、螢池図書館 共催：長寿安心課、豊中市キャラバン・メイト連絡会） ○小学生対象の認知症サポーター養成講座（会場：高川図書館 共催：緑地地域包括支援センター高川分室） <p><関連資料の展示・貸出等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○闘病記の巡回展示（庄内、野畑、東豊中、服部図書館） ○図書館Webサイト上の闘病記リストの更新 ○「広報とよなか」の該当箇所を拡大掲示（螢池図書館）
----------------	---

<p>多文化共生</p>	<p><選書> ○とよなか国際交流協会を通して、市内在住の外国語を母語とする人へ読みたい本・必要とする本（外国語で書かれたもの）のニーズ調査を実施</p> <p><多文化コーナーのPR等> ○「夏のおはなしランドスペシャル」で外国語絵本の読み聞かせ（会場：庄内図書館 協力：（公財）とよなか国際交流協会）</p> <p>○庄内図書館リニューアルオープン期間に書架一面を使用して外国語の子どもの本を展示・貸出</p> <p>○「あります！多言語の本」展示・貸出、外国語の本のOPACでの検索方法や日本語教室のチラシも設置（千里図書館）</p> <p>○「子どもと本のまつり」での多言語おはなし会（会場：岡町図書館 協力：国際交流の会とよなか（TIFA））</p>
<p>ビジネス・就労</p>	<p><ビジネス・就労支援サービスのPR> ○くらし支援課を通じて「地域人材活用セミナー」で千里図書館ビジネスコーナー等をPR</p> <p>○「互助会ニュース」にPR記事掲載（編集・発行：豊中市中小企業勤労者互助会事務局）</p> <p><配本・貸出> ○「豊中しごとセンター」・「とよなか起業・チャレンジセンター」へのビジネス・就労支援関連資料の配本・貸出</p>
<p>子育て・DV</p>	<p><パネル展・資料展示・貸出> ○児童養護施設パネル展示（会場：岡町図書館 共催：大阪水上隣保館 翼）</p> <p><ポスター・資料展示・貸出> ○「じぶんらしさ」みつけよう 男女共同参画週間 連携展示 2022 と共催（会場：岡町、野畑、高川図書館 共催：とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ）</p> <p>○里親月間啓発展示（会場：千里、野畑図書館 共催：こども相談課）</p>

◆ レファレンスサービス

資料をつかって日常の疑問や、仕事に必要な情報など、市民のさまざまな調べもののサポートをしている。関連機関や相談窓口・専門家の紹介もおこなう。



市政資料の収集協力依頼

レファレンス記録の一部は国立国会図書館レファレンス協同データベースへ登録し、Web公開している。登録事例へのアクセス件数は、参加館898館中第7位、市町村立図書館の中では平成27年度以降8年連続で第1位となった（令和4年12月31日現在）。

レファレンスの回答にあたっては、国立国会図書館デジタルコレクションや新聞記事データベースなどのオンラインデータベースも活用している。デジタル化がすすむ市政資料については、資料送付の協力を市内に呼びかけている。今後も紙、デジタル双方の資料を活用しながら、利用者の多様なレファレンスに対応していく。

◆ 個人貸出サービス

<貸出室・一般図書コーナー>

令和4年度の個人有効登録者数は3.4%減少。継続貸出を除いた成人書の個人貸出冊数は10.0%増加。年齢別貸出人数（15才以上）は10.3%増加している。個人予約件数は、0.8%減少、Webサイトでの予約は1.8%減少した。新型コロナウイルスによる休館の影響で減少した個人貸出人数や個人貸出冊数はここ3年増加傾向にあり、おおむねコロナ禍前に戻りつつある。

令和元年度と令和4年度を比べると、個人貸出人数は1.7%増加しているが、個人貸出冊数は2.6%減少。また、個人予約件数は24.7%増加しており、予約方法の内訳を見るとコロナ禍を経てインターネット予約をして借りる傾向が続いている。

令和4年度は7月に電子書籍の貸出サービスが始まったが、各図書館カウンターで利用登録、更新の際に、広報誌などでサービスを知って図書館に来館したという利用者の声が多く聞かれた。

- 登録率 34.0%
- 個人有効登録者数 135,568人
- 年齢別貸出人数（15才以上）821,072人
- 継続貸出を除く個人貸出冊数（成人書）1,672,610冊
- 個人予約件数 952,758件
- 個人予約件数（Web+携帯）810,137件
- 個人予約件数（館内）142,621件
- デジタル図書館貸出冊数 7,214冊

<こども室・児童書コーナー>

14才以下の個人有効登録者数は4.7%減少したが、年齢別貸出人数は4.2%増加した。また、児童書の貸出冊数は7.8%の増加、個人貸出冊数は8.0%増加した。

令和元年度と令和4年度を比べると、個人貸出人数は8.9%増加しており、児童書の個人貸出冊数は23.4%の伸びを示している。

定例のおはなし会は、感染対策を講じながら、少人数や事前申込制にするなど工夫をして実施した。複数館でおこなってきた「本の福袋*」は定着しつつあり、年齢・学年や、季節に合わせた選書で好評を得た。

岡町、高川図書館での6年生平和学習新聞の掲示ほか、多くの館で学校図書館との連携展示を実施した。岡町図書館は都市整備課主催の「とよなか芝生Night Theater ザ・トライアル」（映画の屋外上映イベント）に資料を提供、庄内図書館は公民館主催の「キッズランド」に参加、螢池図書館は地域の子育て関連施設と共催で「すすくおはなしタイム」を実施するなど、他部局などとも連携を深めた。

- 個人有効登録者数（14才以下）21,141人
- 年齢別貸出人数（14才以下）165,161人
- 継続貸出を除く貸出冊数（児童書、団体含む）1,272,097冊
- 継続貸出を除く個人貸出冊数（児童書）1,191,149冊

* 対象年齢やテーマを絞って職員が選書した本を数冊組み合わせ、書名が見えないように包装して貸し出す。

◆ ブックスタート事業「えほんはじめまして」

絵本を通して赤ちゃんと保護者が楽しいひとときを過ごし、心ふれあう時間を持つきっかけとなることを目的とし、子育て・子育て支援事業の一環として4か月児健康診査時に実施している。図書館とおやこ保健課（旧母子保健課）、そして「豊中子ども文庫連絡会」・「おはなしボランティアポケット」をはじめとする市民ボランティアが連携・協働し、絵本を手渡してきた。この事業は、母語が外国語の人や障害のある人を含む、市内の

すべての赤ちゃんとその保護者との関わりを持つ貴重な機会である。



ブックスタートスタッフ研修

しかしながら新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和4年度も引き続き会場で直接絵本が入ったブックスタートパックを保健師から手渡す形とした。

スタッフミーティングなどは感染拡大防止対策のうえ、子育て支援センターほっぺ南部分室や庄内保健センターが入る庄内コラボセンターで見学を含めて実施し、懇談会は岡町図書館でおこなった。令和3年度に続き青山台文庫・絵本学研究所主宰の正置友子さんを講師に迎え「子どもの育ちと絵本について学ぶ」をテーマに講演会を開催し、スタッフの研修の機会とした。

◆ ヤングアダルト（YA）サービス

ヤングアダルト（YA）とは、主に中学生・高校生（12～18才）の世代をさす。

野畑図書館では令和3年度好評であった中学校生徒のおすすめ本リスト「中学生のおすすめ続々」、本の紹介POP展示を学校図書館と連携して引き続きおこなった。千里図書館ではYAらぼ（YA世代のボランティア）の活動として、令和3年度は主にメールでのリモート活動だったが、令和4年度は来館での活動を再開している。また、「ミニときどき！おはなし会」にも参加し、絵本の読み聞かせを通じて子どもたちやその保護者との交流の機会をもった。庄内図書館では庄内コラボセンターのオープニングイベントとして、豊中高校「志学」ボランティアによるウェルカムボード作品を展示した。



野畑エリアの中学生のPOP展示

- 個人有効登録者数 (12～17才) 15,593人 (18～21才) 5,676人
- 年齢別貸出人数 (12～17才) 46,767人 (18～21才) 11,849人

おもな取り組み	実施館
豊中高校ボランティア「志学」の受け入れ	岡町、庄内、千里図書館
中学生職場体験学習おすすめ本POP作成	岡町、千里図書館
高校情報パンフレット展示と配布	岡町、庄内、千里、野畑、東豊中、服部、高川、螢池図書館
各館の取り組み	
とよなか男女共同参画推進センターすてっぷと連携し「じぶんらしき」をみつけるための資料展示を実施・とよなかっ子ラインにて司書のおすすめ本を紹介	岡町図書館
学校図書館を通じてエリアの小中学校と連携した「しょうないっこのすきな本」展示を実施	庄内図書館
市内高校への学校訪問・YA!BOOKS通信発行・YAらぼによるおすすめ本紹介POP展示、ミニときどき！おはなし会・千里青雲高校文化祭において図書館紹介のブース設置・千里青雲高校図書委員によるおすすめ本紹介POP展示	千里図書館

第二中学校生徒調べ学習展示・第二、第十一、第十四中学校生徒によるおすすめ本紹介POPの展示「中学生のおすすめ続々」	野畑図書館
小中学校連携巡回POP展示	東豊中図書館
第十二中学校生徒によるエリア内小学校での紙芝居会への資料提供、後日生徒の感想を展示・エリア内の小中学校と連携し夏休み中にスタンプラリーを実施・小曾根小学校6年生平和月間学習新聞の掲示・とよなか男女共同参画推進センターすてっぷと連携し「じぶんらしき」を見つけるための資料展示を実施	高川図書館
螢池エリアの小中学校の学校図書館紹介と第十三中学校図書委員による「おすすめ本のPOP」展示と紹介本の展示	螢池図書館

◆ 高齢者サービス

令和3年3月に、図書館協議会から提出された「豊中市立図書館における高齢者サービスのあり方について（報告書）」を踏まえ、高齢者が社会、地域とつながり、人生をより豊かに生きる社会の実現に向けて、以下のように取り組んできた。

施設的环境面では階段手すり設置などの施設のバリアフリー化、車いすの貸出、血圧測定器の設置、老眼鏡・リーディングルーペ・拡大読書器の貸出、耳が不自由な方への磁気ループの設置など、各図書館の施設環境に応じて整備・提供している。また市内を巡回する動く図書館には、車いす用電動リフトを搭載している。

図書館資料としては大活字本や朗読CD・朗読カセットテープを所蔵し、庄内図書館の「シニアライフ応援コーナー」、螢池図書館の「人生100年を考えるコーナー」、岡町図書館の「医療・健康情報コーナー」では高齢者のニーズが高い資料を1か所に集約し、探しやすい資料配置としている。また市内全域の高齢者施設5団体にリサイクル図書789冊を譲渡した。施設職員や読み聞かせボランティアによって、図書館資料を使用しての高齢者向けのおはなし会もおこなわれている。



シニアライフ応援コーナー

連携事業としては各図書館(岡町・庄内・千里・野畑・東豊中・螢池)で、長寿安心課および豊中市キャラバン・メイト連絡会と共催し、「認知症サポーター養成講座」を通年で6回実施した。同講座では関連図書の展示・貸出や、図書館職員による医療・健康情報のメディアリテラシーについての啓発活動もおこなった。高川図書館では緑地地域包括支援センター高川分室との共催で小学生対象の「認知症サポーター養成講座」を8月に開催。夏から冬にかけては「たかがわ地域子ども教室」を8回主催した。同教室では高齢者の経験と特技を地域の子もたちに伝え、異世代交流の場ともなっている。庄内図書館では庄内公民館と連携し、高齢者の参加が多い公民館講座で図書の展示・貸出とブックリストの配布をおこなった。



認知症サポーター養成講座

そのほかの取り組みとして、庄内、野畑図書館では、図書館サポーターとして高齢者の参加もあり、意欲的に取り組む姿が見られる。



たかがわ地域子ども教室

◆ 障害者サービス

令和4年度は音声デジター図書*1を郵送により取り寄せる方式からインターネットを介してデータをダウンロードして提供する方法に改めた。郵送期間の省略によって提供までの期間が短縮されることもあり、貸出数は1.4倍になった。学校へ触地図*2の貸出もおこなった。印刷（墨字）図書の郵送貸出の充実など障害者サービスを強化するため、先進自治体に職員を派遣し、研修をおこなった。

音点訳図書の製作候補の選定にあたっては例年同様に個別に聞き取りをし、利用者のリクエストも反映できるようにした。豊中市立図書館からも国立国会図書館・サピエ図書館*3を通してデータ提供しており、新しく製作した音声デジター図書が全国で最多リクエストとなったこともあった。「音訳ボランティアフォローアップ講座*4」を2回実施した。点訳については外部機関に印刷（墨字）図書のテキストデータ化を依頼し、図書館で点字データに変換した後、製作ボランティアの点字校正を経て、点字図書として提供する試みをおこなった。

D a i g a sグループ小さな灯運動からプレクストークPTN3*5の寄贈があり、伊藤忠記念財団からマルチメディアデジター図書「わいわい文庫」の寄贈があった。マルチメディアデジター図書については引き続き市販品の購入もおこなった。また、障害者サービスについて広く知ってもらうための展示を岡町図書館の貸出室でおこなった。障害者サービス資料についてテーマごとに展示することで、障害者サービスの対象ではない来館者からも関心を持ってもらうきっかけになった。

図書館協議会では図書館での読書バリアフリーの取り組みについて、令和3年度から引き続いて議論された。すべての人の「わたしの図書館」をめざし、今後もアウトリーチサービスの充実はもとより、利用しやすいサービスの提供につとめる。

- *1 音声情報を圧縮して記録した録音図書。
- *2 触覚により空間認識をおこなうための地図。本市で所蔵しているのは大阪府の触地図（木製）。
- *3 音点訳図書をはじめとする障害者用資料の所蔵施設などが調べられる全国的な書誌データベース。
- *4 音訳ボランティアの技術向上のため実施している講座。
- *5 視覚に障害のある人が読書するための卓上型音声デジター図書再生機。

◆ 行政へのサービス（庁内仕事応援事業）

庁内各部局に対する資料の貸出やレファレンスサービスに加え、ブックリストの配布や庁内サイトへの掲示による、各職階の新任職員研修や課題研修で関係資料の紹介など情報提供をおこなっている。レファレンスは、「メール以外のデジタルツールを使って行政の事業を行っている事例」や「統計的手法の処理方法が掲載された図書」など施策立案関連の依頼が多かった。

◆ 団体へのサービス

学校、放課後子どもクラブ、幼稚園、保育所（園）、こども園、高齢者施設、障害者施設、子ども文庫・おはなしボランティアグループ・読書会などの市内の活動グループに資料貸出などの支援をおこなっている。

<学校図書館>

学校内での児童・生徒のリクエスト対応の支援や、調べ学習に使用する資料の提供などを実施している。

毎年2回開催している公共図書館司書と学校司書との地域館交流会はコロナ禍以前のように対面で実施し、公共・学校間およびエリアの学校間での情報交換などをおこない、連携事業をすすめている。例えば、小中学校の児童・生徒が作成したおすすめ本のPOPなどを展示するとともに、紹介された本の展示・貸出を公共図書館でおこなった（庄内、千里、野畑、東豊中、螢池図書館で実施）。

螢池図書館ではロビー展「学校図書館大集合！」をおこなった。この展示は、螢池エリアの学校図書館の取り組みや公共図書館と学校図書館が連携していることを市民に広く知ってもらうことを目的としている。他校の取り組みや、進学する中学校の図書館について知りたいという児童の要望に応えるとともに、学校図書館を利用する児童・生徒の様子がよくわかるという市民からの声がある。

高川図書館では、夏休みスタンプラリーを実施したほか、第十二中学校の生徒が小学生に向けておこなう紙芝居会のために資料の選書と提供、感想の掲示をおこなった。また、担当エリアの小中学校卒業生全員にYAコーナーのPR文を配布。小中学校教員には豊中市立図書館の利用方法に加え、教員支援用資料の検索方法やその貸出ベストを紹介した。

令和4年度は小中学校図書館への貸出冊数は前年比7.2%増。

■小中学校図書館への貸出冊数 50,390冊

<学校図書館支援ライブラリー>

学校図書館の「読書」・「学習・情報」・「教員支援」の3つの機能をサポートしている。

令和4年度は「総合百科事典ポプラディア第三版」や動物図鑑の追加購入や、新しい種類の昆虫図鑑や乗り物図鑑・ポケット版植物図鑑を新たに購入した。また螢池図書館に所蔵していた教員支援用資料を令和5年2月に庄内コラボセンターに移転した庄内図書館に一部移管し、コーナーを開設した。



学校図書館支援ライブラリー

<幼稚園・保育所（園）・こども園・放課後こどもクラブなど>

幼稚園・保育所（園）・こども園・家庭保育所・認可外保育所に団体貸出をおこなっている。季節や行事などに関係する資料や、平和・家族・仕事などのテーマの資料に関するリクエストも多い。貸出や受取場所などについて各施設の相談にも応じ、選書・配本など支援している。

乳幼児施設への出前講座のあり方を見直し、従来の絵本の貸出や団体リサイクルに加え、0歳児、1歳児の絵本リストの作成・提供をおこなった。

放課後こどもクラブへは、申し込みがあった34校に団体リサイクル本「ひと箱おまかせパック」を配達した。

<子ども文庫>

市内の子ども文庫は12文庫。そのうち「豊中子ども文庫連絡会（豊子連）」加入は9文庫。それぞれの地域で子どもに本を手渡し、子どもの育ちを見守る活動が続けられている。子どもの身近な居場所として、また、子どもをとりまく大人の交流の場として地域に根づいている。図書館は長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供するなど文庫活動の支援につとめている。

令和4年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、定期的には開庫できない文庫もあったが、時間や人数を制限するなど工夫をしながら活動し、徐々に従来の文庫の状態に戻りつつある。



「子どもと本のまつり」



「子どもと本のつどい『和ろうそくは、つなぐ』」

「子どもと本のまつり」は7月に開催。新型コロナウイルス感染防止につとめながら事前申込制にし、5つのおはなし会と手作り工作をおこなった。国際交流の会とよなか（T I F A）協力のもと、中国語とウクライナ語による多言語おはなし会も実施した。「子どもと本のつどい」では、写真家・映画監督の大西暢夫さんを講師に「『和ろうそくは、つなぐ』～巡りつなぐる職人の仕事～」を11月に開催、Web 会議システムによるライブ配信も同時におこなった。写真展も同時期に10日間開催した。なお、この講演会の様子は豊中市ユーチューブ「とよなかチャンネル」で動画配信している。

<おはなしボランティア>

令和4年度後半は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動制限が少しずつ緩和され、放課後こどもクラブなどでの読み聞かせを再開した学校も多くみられた。それにともない多くのボランティアグループがおはなし会の回数や人数などに応じたプログラム作りを工夫し、図書館では選書や打ち合わせなどの機会に相談を受けることも増えた。図書館に関連する各グループの活動内容については「市民との取り組み事業」（10ページ）を参照。「子どもと本をつなぐボランティア講座」（全6回）を実施したほか、「おはなしボランティアフォローアップ研修講座」として、令和4年度の新刊絵本を会場に集めた「絵本の広場」を3日間開催。新たな絵本との出会いやボランティア同士の情報交換、交流の場とした。同時に豊中市在住の絵本作家・国松エリカさんのスペシャルトーク「絵本のタネを育てる」と職員による絵本紹介もおこなった。

◆ 動く図書館「とよ1ぶっくる」による巡回サービス

図書館から離れたエリアや来館が困難な子どもたちの通う児童発達支援施設など合計21か所へ、動く図書館車で約4週間に1回ずつ巡回サービスをおこなった。動く図書館車の積載冊数は約3,000冊と限られているが、資料の入れ替えを定期的におこなうことで、いつ見てもなにか新しい資料を手にとっていただけるよう心がけた。個人の貸出冊数はコロナ禍以前よりも増加傾向にあり、年代別に見ると30～40代の子育て世代や学齢期の子ども、後期高齢者など、遠くまで出歩くことが難しいと思われる人がよく利用されている。車内での特集展示として、特別なニーズのある子どもたちの読書の手段を紹介する「りんごの棚」の展示をおこなった。今後来館が困難な人のためのアウトリーチサービスの一環として、新たな施設配置での利用状況に応じて、利用者一人ひとりのニーズをくみ取りながら多様な資料を届けていきたい。

施設への巡回サービスについては、平成13年より続けていた刀根山支援学校への巡回サービスが3月まで

で終了した。同じステーションで時間をずらして実施していた個人利用者や近隣保育園などへのサービスが継続できるよう、「アトリオとねやまこども園前」での巡回を令和5年4月から開始することとなった。

児童発達支援センター、児童発達支援事業所あゆみ、豊中支援学校にて「おはなし会がやってきた！」をおはなしグループと図書館職員でおこなった。プログラムにはパネルシアター、手遊びや歌も取り入れ、クラスごとにさまざまな反応が見られた。今後も本事業を通じて、子どもたちが本に出会い、その楽しさを知ってもらう機会としたい。

■貸出人数 7,133人 ■個人貸出冊数 48,578冊



ステーション巡回



「りんごの棚」

◆ 図書室

いぶき図書室は、青年の家いぶき改修工事により令和3年3月に休室し、4月から令和4年3月まで近隣の共同利用施設「穂積センター」の玄関口で、週2回午後2時から午後4時までサービスを提供していた。令和4年4月から青年の家いぶきと少年文化館が施設統合した「青少年交流文化館いぶき」で、新たに「豊中市立図書館 青少年交流文化館いぶき（3階）サービス」としてサービスを実施している。内容は、①予約確保資料の受け取り②貸出資料の返却③リクエスト票の預かりなどである。サービス提供時間は週4時間から週7時間に拡大した。

利倉西センター図書室には5,466冊の資料があり、週2回午後2時から午後5時まで開室している。令和3年度に比べ貸出人数および冊数でそれぞれ25.2%と31.9%の増加となっている。豊島西小学校内のバス図書室の移転から4年が経過し、利倉西センター図書室の認知度も徐々に上がってきていることや、コロナ禍が落ち着き開室日が増えるのにもとない、利用も増加している。

(利倉西センター図書室) ■貸出人数 2,473人 ■貸出冊数 7,632冊
(青少年交流文化館いぶき（3階）サービス) ■貸出人数 3,485人 ■貸出冊数 7,874冊

◆ 資料の収集と保存

資料の収集は職員で構成する選書委員会で、毎週1回、市内全図書館の資料の選書をおこなっている。「豊中市立図書館資料収集方針」（図書館 Web サイトで公開）に基づき、市民の主体的な生涯学習活動を支援していくために市民の要望および社会の動向にも配慮しながら、教養・調査研究・レクリエーション・ビジネス・日常の課題解決に役立つ資料を幅広く収集している。

また電子書籍については、電子書籍導入チームと選書委員会で選書をおこなった。多様な層が利用できる従

来の書籍に対し、電子書籍は読む場所を選ばず、文字の拡大も可能、音声読み上げ機能を備えるなどいろいろな読書方法に対応しており、それぞれの特性を考慮して選書をしている。

保存については、野畑図書館書庫を豊中市立図書館全体の書庫としている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、また限られた職員で効率的に蔵書更新をおこなうため、全館の担当者が集まるという検討方法を見直し、それぞれの図書館で個々の資料について合議による検討をおこない、野畑図書館書庫で選別し、保存している。

◆ 人権・平和に関する取り組み

市民向けの取り組みとして、講演会や各種資料展示・パネル展を実施し、市民と職員がともに人権・平和について考える機会としている。

また、職員が人権について理解を深め、市民への啓発につなげるため、年3回の研修をおこなっている。

市民向け人権講演会・資料展示・パネル展
人権講演会「児童相談所ってどんなところ？」社会福祉法人大阪水上隣保館 翼 施設長 土井聡子さん（共催：こども相談課）
資料展示「戦争と平和（平和月間）」
資料展示「男女共同参画週間連携展示 2022（男女共同参画週間）」（会場：岡町、野畑、高川図書館 共催：すてっぷ）
資料展示「人権関連資料（人権月間）」（会場：各図書館 螢池図書館は通年）
参加型展示「平和の木」（会場：庄内、東豊中図書館）
作品・資料展示「小曾根小学校6年生平和学習新聞」（会場：高川図書館）
作品・資料展示「第四中学校夜間学級作品展」（会場：東豊中、服部、高川、螢池図書館）
パネル・資料展示「児童養護施設パネル展」（会場：岡町図書館）
ポスター・資料展示「里親月間連携展示」（会場：千里、野畑図書館 共催：こども相談課）
作品・資料展示「読むことが困難な子どもたちの読書の手段を紹介する『りんごの棚』展」（会場：庄内図書館）
作品展示「原田小学校6年生平和学習の作品」（会場：岡町図書館）
職員研修
地域の多文化共生について～「コロナ禍における外国人市民の生活等への影響に関する調査報告書」より～ 豊中市立図書館全体の合同研修。とよなか国際交流協会、人権政策課職員によるオンライン・対面型講義。終了後質問や感想を共有。
法務省監修の動画「高齢者虐待」を視聴。事前配布資料「ともに生きる時代へ～高齢社会と人権」および「豊中市立図書館における高齢者サービスのあり方について」の内容とあわせて高齢者を取りまく状況の把握と高齢者に対し図書館ができる今後のサービスの可能性について検討。
DVD「人 とよなか 寺本知」（一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会）の視聴、アンケート・振り返りシートの作成。職員間での共有。
「図書館の人権資料について」 冊子「豊中市立図書館における人権問題資料と制限資料」をもとに、豊中市立図書館が所蔵する人権資料や利用制限資料、これまでの事例等を振り返り、その経緯や対応を確認。終了後受講感想、振り返りシートの作成。

◆ 研修

新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの研修がリモートでおこなわれた中、会場参加可能な研修も再開され始めた。

令和4年度は国立国会図書館に職員を派遣し、情報発信やその運営などについて学んだ。

また、吹田市立図書館と相互に職員派遣研修をおこない、本市は吹田市立図書館の障害者サービスを、吹田市は本市の学校図書館支援などについて学んだ。

教育委員会事務局各課で所管業務を紹介する動画を作成し、毎月1課の紹介動画を視聴し、各職場の業務内容を共有した。このほかにも、令和4年度は行政職員としての知識や技術習得のため、庁内の一般研修を積極的に受講した。

職員が受講した主な研修（職場研修、個人研修含む）

専門研修	一般研修
令和4年度図書館司書専門講座	契約事務研修
令和4年度大阪府図書館司書セミナー 「箕面市立船場図書館の運営」等	クレーム対応研修
令和4年度サピエ研修会	NEW EDUCATION EXPO 2022
令和4年度図書館地区別研修	法務スキルアップ研修
講演と新刊紹介紹介 2021年に出版された子どもの本	認知症サポーター養成講座
令和4年度大阪公共図書館大会	情報セキュリティ研修
大子連児童文化講座 「絵本のこと」等	人権研修主任推進員・推進員等合同研修
令和4年度新任図書館長研修	教育委員会事務局業務内容紹介研修
令和4年度ブックスタートスタッフ研修	
子どもと本をつなぐボランティア講座	
吹田市立図書館障害者サービス研修	
令和4年度音訳ボランティアフォローアップ講座	
国立国会図書館情報発信・広報研修	
計：46 講座 67 人参加	計：36 講座 1,373 人参加